

稲作情報7号

平成27年7月14日
JA全農みやぎ

=出穂は8月1日(予想)と平年より4~5日進んでいる。!!=

1 気象予想(7月11日~8月10日の予想)

平成27年7月9日仙台管区気象台 発表

[特に注意を要する事項]

- ・月間の前半は、気温がかなり高くなる見込みである。

[1か月と週の天候]

- ・月間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、後半は数日の周期で変わるり、平年に比べ晴れの日が少ない。
- ・平均気温は、高い確率60%、降水量は、多い確率50%、日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%である。
- ・週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率50%である。

月間予想

【気温】東北地方



【降水量】東北地方



【日照時間】東北地方



週間予想

【1週】東北地方



【2週】東北地方



【3~4週】東北地方



凡例: 低い 平年並 高い



2 生育状況

【移植栽培】7月10日現在

- ・県全体の平均値は、草丈が59.5cm(平年比96%)、1㎡当たりの茎数が547本(平年比99%)、葉数が10.8枚(平年並)であった。
- ・7月10日現在、県内生育調査圃の8割で幼穂^{ようすい}が確認され、幼穂長の平均は3.6mm(平年差+1.7mm)となったことから、平年に比べ4~5日早まっている。
- ・県平均の減数分裂期は、7月15~21日頃と見込まれる。

県全体 & 品種別生育状況 (県生育調査圃)

県全体

県全体	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値			幼穂長(mm)		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
	(cm)	(%)	(%)	(本/m ²)	(%)	(%)	(枚)	(枚)	(枚)						
	59.5	95	96	547	95	99	10.8	▲ 0.3	±0.0	37.0	▲ 0.8	▲ 0.8	3.6	0.3	1.7

品種別

品種別	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値			幼穂長(mm)		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
	(cm)	(%)	(%)	(本/m ²)	(%)	(%)	(枚)	(枚)	(枚)						
ひとめぼれ	60.0	96	97	529	95	99	10.9	▲ 0.2	0.1	37.6	▲ 0.7	▲ 0.4	4.3	0.4	2.1
ササニシキ	57.1	92	95	591	93	101	10.6	▲ 0.7	▲ 0.3	35.6	▲ 1.3	▲ 1.7	1.9	0.1	0.7
まなむすめ	62.5	91	90	569	96	103	10.6	▲ 0.6	▲ 0.3	37.0	▲ 0.1	▲ 1.4	3.2	0.6	1.5

640本/m²

ま
な
む
す
め



490本/m²

げ
ん
き
ま
る



【直播栽培】 7月10日現在

- ・直播栽培については、草丈は50cm強、葉数は8.5~9.5枚程度となっており、移植に比較して1~1.5枚程度少ないが、順調な生育となっている。
- ・m²当茎数は、圃場により大きな差があり、450~600本/m²となっているが、弱小分けつが多い。
- ・ホタルイ等の残草が見られるものの、除草剤処理によりかなりの効果発現が見受けられる。

石
巻
の
事
例



大
郷
の
事
例

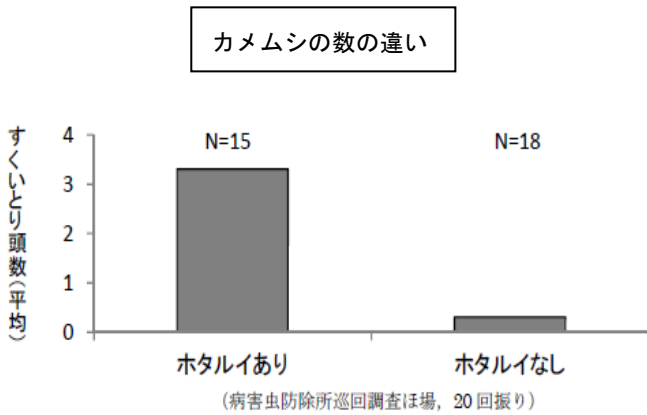


3 今後の管理

(1) 病虫害防除

- ・いもち病—葉いもち感染好適日を見ると、広域的に出現しておらず。発生時期はいつもより遅く7月4半旬、発生量は「平年並み」と予想されている。
- ・紋枯病—前年の発生や茎数が多いことから「やや多い」と予想されている。要防除水準に達したら薬剤散布を実施する。

- ・斑点米カメムシ類一畦畔や周辺にあるイタリアンライグラス等のイネ科植物にカメムシが見られるので、出穂の10日前まで草刈や環境整備を必ず実施する。〔予察注意報2号で「多い」〕
- ・県内水田を見るとイヌホタルイが多く残草しており、雑草抜き取りや防除を徹底する。



紋枯病の要防除水準

防除要否の判断基準 (被害確率50%で設定)

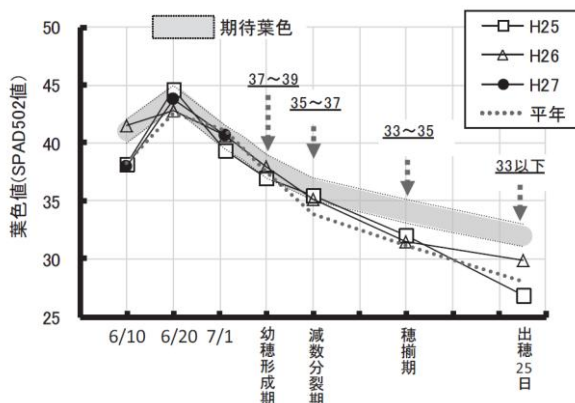
被害許容水準	穂ばらみ期発病株率	
	ひとめぼれ	ササニシキ
収量5%以上減収	18%	10%
収量3%以上減収	12%	9%
収量1%以上減収	10%	3%
白未熟粒3%以上増加	67%	28%
白未熟粒1%以上増加	11%	・

(2) 水管理

- ・減数分裂期が台風11号の影響を受ける時期にくると思われるので、上陸が予想される場合は水を張り強風による葉先への害をできるだけ軽減する。
- ・天候予報から、高温傾向が続くと思われるので、白未熟などの高温障害が懸念される。そのため、「昼間深水」「夜間落水」を基本として穂の周辺環境の温度低下を図る。
- ・中干し後は、急激に入れずに間断灌水とし、晩生品種や直播栽培などで減数分裂期に低温が予想される時は深水管理とする。

(3) 追肥

- ・土壌窒素は前年同様減少しており、吸収されている窒素は前年より少なく、葉色はさめてきている。
- ・7月1日では、理想とする期待葉色の範囲内であったが、7月10日現在の葉色は、いずれの品種とも前年及び平年を下回っており、窒素栄養不足は白未熟粒の発生を助長するので期待葉色値を維持するように追肥を実施する。
- ・追肥量と時期は下記の表を目安とする。但し、一発肥料や復元田等では注意を要する。



品種名	追肥時期及び施用量(窒素成分量)	
	幼穂形成始期(出穂25~20日前) [幼穂長:1~2mm]	減数分裂期(出穂15~10日前) [幼穂長:3~12cm]
ひとめぼれ	1.0kg/10a	1.0kg/10a
ササニシキ	-	1.0~1.5kg/10a
まなむすめ, つや姫	2.0kg/10a	-
みやこがねもち	-	1.0kg/10a